



国際連盟アーカイブ in Geneva

2009年以來毎夏2週間ほどスイス・ジュネーブの国連難民高等弁務官事務所でアーカイブ資料整理を行ってきている(本誌No.91既報)。今年、この資料整理の傍ら、国連ジュネーブ事務所図書館アーカイブ室を訪れた。2007年にも閲覧した国際連盟アーカイブ資料の保管状況は、変貌していた。

UNOGフランス語圏の国際機関のアーカイブ

国連ジュネーブ事務所(UNOG)には図書館があり、その中にアーカイブ室が設けられている。国立情報学研究所の共同研究費を得て、フランス語圏国際機関のアーカイブについての研究調査のため、ここを訪れたのは2007年10月だった。この時は、フランス語圏では、フランス語という言葉に立脚したアーカイブ資料の取り扱いの伝統を見ることができないのではないかという仮説に基づく訪問調査を行った。この時は、ハーベルマン・ボックス・アーカイブ室長(当時)から、「目録は、「ラポルテール・ジェネラル」と称する大判の冊子目録と、カード目録、それにテーマ別目録がある」「UNOGでは現在もなお同じシステムで現用文書の管理(記録管理)を行っている」という説明を受けたと記憶する。

アーカイブ箱

2007年、ヒアリングによる訪問調査とは別に国際連盟の記録を閲覧した。閲覧しようとした資料は緑の布張りで重量感のある(おそらく木製の)アーカイブ箱に収められていた(写真①)。



①

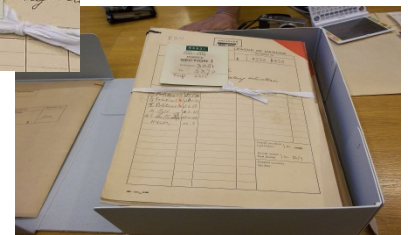


②



③ →

2012年現在の
保管状況



箱の蓋を留める古色蒼然とした真鍮の金具が箱の重量感を増幅していた。だが、2012年にアーカイブ室を訪れたときには、同じ資料はグレーの中性紙の厚紙の箱に収められていた(写真②)。箱の外側には二箇所、ちょっとおしゃれなフォントを使ったラベルが貼り付けられていた。箱の蓋は留め金具から木綿のリボンに変わっていた。見た目は、2007年の訪問調査の際に見学を許されたUNOGの現用文書書庫で見たのと同じ、21世紀的アーカイブ箱になっていた。箱を開けると、あの緑の箱につけられていたラベルの紙が紙だけになって、ドシエの束の一番上にちょこんと収納されていた(写真③)。

(小川千代子)

おもな内容

国際連盟アーカイブ in Geneva……………1
 福井県立図書館見学レポート(上田雄太)……………2
 突撃! モンゴルの国立記録管理院+アーカイブセンター(3)……………4

DJIレポート No.92 20121130

DAS Do you know? SAAのMLから/消息……………5
 文献紹介/あしあと/活動/巻末ひとこと……………6

福井県文書館見学レポート

上田 雄太(国際資料研究所研究生)

11月13日から11月22日にかけて福井県で開催された国文学研究資料館主催のアーカイブズ・カレッジ短期コースに参加した。この時見学させて頂いた福井県文書館について報告する。

■福井県文書館の概要

福井県文書館は、2003年2月開館した。都道府県文書館としては、28番目の設立である。

所管は、開館当初は知事部局(情報公開・法制課)であったが、2012年から教育庁生涯学習文化財課に変更され、図書館の附属機関という位置づけとなった。職員の内訳は、正規4人、嘱託7人、アルバイト2人であり、館長は図書館長と兼任である。

福井県文書館の目的は、福井県から引き継ぐ歴史的公文書と古文書(地域資料)の研究・収集・保存・利用である。収集資料は、歴史的公文書約10万7千件(福井空襲・福井地震により戦前の文書は簿冊240冊、戦後の文書は簿冊約45600冊、利用できるものは約37500冊)、古文書約169000件(910の家・団体の史料群)、行政刊行物20736件(他都道府県のもの含)、写真約11900点、マイクロフィルム約8000本である。

福井県文書館は、福井県立図書館と併設している。福井県立図書館の来館者数は、年間70万人で全国1位、個人貸出冊数は2位であることから、このメリットを生かし、文書館の利用者数向上を目指している。その結果、一般利用者数は毎年増加しているが、一方で県庁から4kmの距離にあることもあってか内部利用者(県庁職員等)の利用が少ないのが現状である。

■利用者数向上のための「普及」活動への批評

利用者数向上のために更に福井県文書館では「普及」活動にも力を入れている。その代表的なものが「展示」と「レファレンスサービス」である。「展示」によって、文書館への入館のハードルを下げ、「レファレンスサービス」によって資料の閲覧のハードルを下げる。

しかしながら、この2つについてあえて批判的



福井県立図書館・福井県文書館の外観

に見たならば、この2つは既に博物館と図書館で行われてきたことであり、とりわけ目新しいものではない。展示の新鮮さを維持する為に展示の入れ替えを行うのは、博物館が企画展を定期的で開催し、来館者数を増やすという方法でこれまでも行われてきた。更に、職員の方が「レファレンスサービスをしている中で、利用者の方の話を聞いていると、本当に利用者が知りたいと思っていた問いが分かった」と話されていたが、これは、図書館であれば、司書資格のレファレンスサービスの授業で学ぶ初歩的な技術であり、このことから推測すると、福井県文書館では、図書館で提供されているような高度なレファレンスサービスは、提供できていないのではないだろうか。

これらのことから見えてくることは、福井県文書館が文書館としての意識(方針)が曖昧であるということである。果たして、文書館が図書館や博物館の真似事をする必要があるのだろうか。

もう1つ見えてくる問題点は、文書館に勤務する職員の文書館に対する専門性の低さである。例えば、ある職員の方は文書館勤務3年目であるが、高校の教諭からの異動で文書館勤務となり、アーカイブについて専門的に学んできた人ではない。また、文書館の職員には、公文書担当、古文書担当など担当が分かれており、基本的に古文書担当の職員に公文書について質問しても、「公文書のことにはわからない」という回答が返ってくる。この問題は、福井県文書館に限ったことではなく、多くの文書館で当てはまることである。

■博物館・図書館とは違う文書館の存在価値とは？

福井県文書館は、開放的で利用しやすい文書館である。しかし、開放的であることを演出することが文書館として優れた文書館であるとは言い切れないし、やはり、文書館として図書館や博物館とは違うという明確な主張や方針がなくては、文書館としての存在価値を証明することはできない。例えば、海外に目を向けるとスイスの連邦公文書館（Schweizerisches Bundesarchiv）は、開館日は1週間のうち火曜日、水曜日、木曜日（いずれも開館時間は9時から19時）の3日間だけである。また、ジュネーブ市公文書館（Archives de la ville de Genève）の開館日は、水曜日（開館時間は14時から18時）と木曜日（開館時間は8時半から17時）の週2日である。ちなみに福井県文書館の開館日は、火曜日、水曜日、木曜日、金曜日、土曜日、日曜日の週6日である（いずれも開館時間は9時から17時）。これだけを見ると、スイスの2つの文書館は、とても閉鎖的な文書館であり、存在感があるようには感じない。しかし、これらの本当の意味は、「いかなる資料請求があっても、我々は的確に該当資料を提供できます。但し、その為には、資料を整理するための時間が必要です。したがって、開館日は週2日（週3日）

となります」ということである。このことは、文書館としての独自の威厳や存在感、更には職員のプロフェッショナリズムを反映しているように感じる。

文書館は、博物館のように資料を展示して来館者を集客する機関ではないし、図書館のようにより多くの利用者に情報（図書や雑誌等）を提供する機関でもない。文書館は、プロフェッショナルな職員（アーキビスト）によって、資料（記録）がきちんと管理され、必要な時に、確実に提供するための機関であるべきだと私は考える。

参考文献

- 1) 福井県文書館ホームページ
<<http://www.archives.pref.fukui.jp/>>
(入手 2012-11-29)
- 2) 福井県文書館年報 第9号 平成23年度
<<http://www.archives.pref.fukui.jp/fukui/08/2012bulletin/nennpou9.pdf>> (入手 2012-11-29)
- 3) Schweizerisches Bundesarchiv
<<http://www.bar.admin.ch/>> (accessed 2012-11-29)
- 4) Archives de la ville de Genève
<<http://www.ville-ge.ch/geneve/archives/>> (accessed 2012-11-29)

写真はすべて著者撮影



開放的な閲覧室



モンゴル国立公文書管理局+国立公文書センター (3) 最終回

2012年3月28日、ウランバートルにて

小川 千代子



中央の建物が ARXIB＝公文書管理局

ARXIB＝管理局への案内人

前回述べたとおり、私が最初にドアを開けたのは、ARXIB＝公文書センターだった。センターの受付のお兄さんは、結局私に対しては何

度も受話器を押し付ける以外、特になにも話しかけてこなかった。お兄さんの頭越しに見えるシカの頭をかたどった飾りのついた、レトロでおしゃれな白熱灯の照明を眺めていたら突然、黒いコートを着込んだ若者が足早に現れた。

「私は英語を話します。あなたをアーカイブに連れていきます。」

若者は忙しそうに私を促し、外に出た。外の空気はもちろん零下で、おでこや頬がピリっとした。

「私は、ここに来て3ヶ月になります。考古学で学位を持っています。今は、アーカイブの整理をしています。」と、ちょっと自分のことを語った。

私は息せき切って速歩の若者を追った。彼は若いう上、かなり早足でタツカカ歩く。どうやらさっき私が一人で歩いてきた道を逆行している。車が通るのはむつかしそうな、くねくねした裏通りを、若者はまっしぐらに歩いた。追っかける私。こうして、若者に案内され私は最初に見つけた黄土色のアーカイブ ARXIB＝管理局に戻ってきた。

ARXIB＝管理局に「入館」!

若者は無造作に管理局の大きなドアを押し、私も一緒に早足のままドアの中に飛び込んだ。中は、さっきの ARXIB＝センターの入口と同じように、カウンターがあって、制服の守衛? がいた。こちらの守衛は体の大きなおじさんだ。若者はこのおじさんに一言告げると、そのまま階段を、さらに早足で上っていく。私も息を切らしながら小走りでこれを追いかける。多分4階まで上ったところで、彼は右折して廊下に入り、最初の右側のドアを開けた。そこは事務室で、中には2-3人の女性がいた。私が部屋の中に入ると若者は後ろから中の一人に声をかけた。応えた女性は30歳くらいで、黒いスーツだった。彼女は私の方を見て立ち上がった。ここでの案内は彼女だと察した私は、若者に案内のお礼を言おうと振り向いた。だが、その時若者の姿はすでになかった。早ッ!

ARXIB＝アルヒーフのパンフレットは品切れ

スーツの彼女は英語を話した。そこで、私は手始めに日本から来たこと、アルヒーフの英語のパンフレットが欲しいということを手短かに伝えた。彼女は「ここに英語のパンフレットはありません。担当者

のところに行って聞いてみましょう。」というので、私を促して部屋を出た。階段を1階分下って、暗い廊下の右側のドアを開けたら、そこには年配の男性が一人、机に向かっていて。彼女はモンゴル語で彼に何事か話し、彼は横に首を振った。

「英語のパンフレットは準備中です。ありません。」彼女は言った。「モンゴル語のものがあれば、欲しいです。」と私はたたみかけた。彼女は再び、机に向かって年配の男性と言葉を交わした。男性は机の二番目の引き出しを大きく開けると、一番奥の方から紙切れを取り出し、ムニャムニャとつぶやくと、再びそれをしまいこんだ。

「モンゴル語のはこれだけで、あげられません。」男性の動作からも、そのことは見当はついていて、彼女の通訳を聞いて、かなりがっかりした。

事務室、廊下、エレベーター...

彼女は親切だった。男性の部屋を出ると、「もっとエライ人のところに行って、聞いてみましょう。」といい、再び階段を上りはじめた。私たちは多分5階まで上り、また右折して、暗い廊下をギクシャクとかなり奥の方まで歩いた。歩きながら彼女は「ウチは、もうじき移転の予定です。新しい建物が、少し郊外にできるんです。」と語った。確かに、外から見ただけではあるけれども、二つの建物は共に決して新しくはないし、使い勝手が良いようにも見えなかった。だから、これは本当らしくきこえた。(帰国後モンゴル国立公文書館のHPを見たら、新館建設の情報が見えた。)

それにしても、廊下にはなんとなく、人気がない雰囲気漂っていた。彼女は重々しいドアの続く廊下をしばらく歩いた後、とあるドアをノックした。反応はなかった。

「不在です。」こういって、彼女は再び私を促すと暗い廊下をギクシャクと歩き、ついにエレベーターホールにたどり着いた。降りてきたエレベーターには先客がいた。彼女が乗ったので、私も追いかけた。エレベーターは2階で止まった。

「ここです。」私の後ろにいた彼女は、エレベーターのドアが開くと、私を押し出した。押し出されて出てきたのは、さっきの受付台の横だった。振り向いて「ありがとう」と私がいおうとするのと、彼女が目を伏せたまま、エレベーターの扉に隠れて消えていくのはほぼ同時だった。

こうして、私の「アポなし突撃モンゴル国立公文書館見学ツアー」は、唐突に終了した。(完)

付記

お世話になった2つのモンゴル国立公文書館の皆様、アポなしの失礼にもかかわらずご親切にご案内いただき、本当にありがとうございます。どなたのお名前もうかがいそびれましたが、この場を借りて心から感謝申し上げます。

“DAS Did You Know?”

SAAアメリカ・アーキビスト協会のMLから

1) “DAS Did You Know?”

DAS といってもドイツ語中性定冠詞ではありません。DAS Did You Know?とは、アメリカ・アーキビスト協会 (Society of American Archivists,以下 SAA) のメーリング・リスト、In the Loop for Tuesday, September 25, 2012 で送信されてきたお知らせの中にあった話題の一つです。

私は約 30 年前から、SAA の会員です。最初の頃は 2 ヶ月に一度、手作り感満載のタイプスクリプトの「ニュースレター」が航空便で送られてきていました。90 年代になると、「アーカイバル・アウトLOOK」と表題が変わり、毎回合衆国アーキビストが寄稿するなど内容も分量も充実してきました。印刷も、本格的なものになってきました。この充実ぶりを追いかけるように、インターネットが普及し、SAA からの情報提供もメールやインターネットを利用するのが当然になってきました。今では、紙のニュースレター「アーカイバル・アウトLOOK」よりも、頻繁に送付される ML 「In the Loop」が、私のような遠隔地会員には便利なツールとなってきました。

とはいえ、ほかにもメールで様々なお知らせが来ますので、最近はあまり開かず、結構放置することが多いのです。ですが、久しぶりにこれを開けてみました。

SAA の活動は日本のアーカイブ関係団体と比べると政治的な活動も含め、常に活発な印象があります。情報発信の考え方とか、手法がかなり違ってるんだろうと思います。いろんな見出しがある中で、一番最後は「継続教育」でした。そこには DAS お知らせ、っていうのがあって、これ、なんだろうかと見てみましたので、短く報告しましょう。

まず、「DAS は、Digital Archives Specialist Curriculum and Certificate Program」と説明があります。つまり、「DAS」とは「デジタル・アーカイブ専門家のためのカリキュラムと認定プログラム」の省略形なんです。では、このプログラムはどんなことをするのか。ちゃんと簡単な説明がありました。

DAS is SAA's exciting continuing education suite, designed to ensure that archivists have

the know-how and tools for appraising, capturing, preserving, and providing access to born-digital records.

この文章を私なりにざっと日本語で解釈すると、こうなります。

「DAS とは、アーキビストたちが、ボーン・デジタル記録の評価、捕捉、保存、及びアクセス提供についてのノウハウを持つことができるようになるための、意欲を燃やしている継続教育分野である。」

電子記録の取り扱いは、世界中の記録管理とアーカイブ保存の世界での「大問題」です。電子記録の取り扱いについてはなんとなくアメリカは先進的なんだろうという印象はあるのですが、具体的にどんな動きがあるのかは、これまであまり真剣に調べたことはありませんでした。ふとした弾みに出会ったこの DAS 情報をみて、SAA の中でも意欲的な取り組み対象とされていることがわかりました。

ついでに言いますと、SAA 自体、多くの活動を同時に進行させています。その中で、このコメントのお陰で SAA の重点項目が明確にされていて、いいな、と思いました。

DAS のブログ: <http://dasstudentdiary.blogspot.jp/>

2) 翻訳考「ボーン・デジタル」→電子由来

アメリカの話題は英語からの翻訳なので、ついでにこの際、カタカナ英語をちゃんとした日本語に直したいという私の考えも聞いてください。文中、「ボーン・デジタル記録」という用語があります。直訳すれば、「電子生まれ」とか「デジタル生まれ」です。ただ、このカタカナ語はわかっている人にはわかるけど、知らない人にはなんのことだかわかりません (影の声: アーカイブ、アーカイブズはその筆頭)。そこで、私は「ボーン・デジタル記録」の「ボーン・デジタル」は「電子由来」という訳語を提案します。日本語でものを考えるなら、見てすぐその意味がわかる訳語をひねり出すべきである、そんな考えに基づく提案です。

(小川千代子 2012.9.27)

本稿は、記録管理学会ニュースレターNo.59 2012.10 既報の同名エッセイに加筆したものです。

●アーキビストの消息

岡本 詩子 氏 11月1日付 採用 国立公文書館*****おめでとうございます*****

●◆▼やぶにらみ文献紹介【●図書◆論文▼逐次刊行物■その他】●

■佼成図書文書館 資料の評価選別・廃棄について
昨年 12 月 1 日、それまでの佼成文書館と佼成図書館は併合されて佼成図書文書館となったのは、記憶に新しい。文書関連の主要業務が「資料の収集・整理・保存・利用」であることは従来と変わらない。収集済資料は文書保存箱で 2000 箱というから、書架延長に換算すると、ざっと 200m弱だろうか。「保存場所はほぼ満杯」「保存している歴史資料について内容を精査し…保管スペースの有効利用を…と教団から改善策が示された。」とのことで、スペース確保を急がねばならない状況と、一旦廃棄したら資料は二度と戻らないことへの不安の板挟み状態に置かれた様子。幸いなことに、「折しも、充実した公文書管理がなされていると評判の沖縄県公文書館で…資料の評価選別について学ぶ機会を得た。」「なぜ、評価選別がきちんと行われ、廃棄・保管作業が着実に進んでいるのかわかった」「沖縄県公文書館で行われているような管理職を含めた評価選別会議を、評価選別システムの業務工程に組み入れることも、現在検討中」と、図書文書館での評価選別の実務が具体的

に動き出した様子に、胸をなでおろした。著者は(楢)、所報 CANDANA(チャンドナ)No.251、11 頁、平成 24 年 9 月 15 日 中央学術研究所(ち)

■近畿大学「文書情報管理論」を開講 田窪直規教授に直撃インタビュー

2012 年 4 月から司書課程に JIIMA の文書情報管理士の資格取得をめざす「文書情報管理論」を開講した。近畿大学の師匠課程では、10 年以上も前から、INFOSTA「情報検索基礎能力試験」を狙う科目を必須科目の中に位置づけ、その後選択科目に NOMA「ファイリングデザイナー」「電子化ファイリング検定」の資格を意識した「ファイリング論」を開講した。文書情報管理論はその延長線上に位置づけられている模様。講師は JIIMA が派遣しているとのこと。記事は「私は、ほかの大学の支所家庭にも、この授業が広がる可能性はあると思います。」という田窪教授の言葉で締めくくられている。IM ナレッジコンテンツ委員会、『月刊 IM』Vol.51No.10 2012.10 月号 pp.28~30、JIIMA(ち)

●特集 千代子のあしあと●◆▼●◆●●図書◆論文▼逐次刊行物■その他●◆▼●◆

▼DJIレポート No.92 2012 年 11 月 30 日アップ、6 頁、PDF。 Web国際資料研究所www.djichiyoko.com

■「大会を終えて」記録管理学会ニューズレターNo.58 2012.7.20 発行 15 頁

■UNHCR イントラネット記事 9 月 10 日付。

DJI国際資料研究所の主な活動 2012 年 9 月 16 日～2012 年 11 月 15 日

<執筆>

- ・『DJIレポート』No.92 20121130 発行 www.djichiyoko.com にPDF掲載
・「大会を終えて」記録管理学会ニューズレターNo.58 2012.7.20 発行
・「UNHCR のボランティア」『レコードマネジメント』No.62、記録管理学会 2012.5 発行
・ARA&ICA/SPA エジンバラ国際会議 2011 参加報告『記録と史料』No. 22 全史料協会誌 2012. 3 発行
・UNHCR イントラネット“Volunteering of archives arrangement in UNHCR”取材対応

<出講>

- 9 月 19,26 日 10 月 3,10,24,31 日 11 月 7,14,28 日 鶴見文学部「記録管理論」
9 月 21 日、28 日 学習院大学「記録保存と現代」
10 月 11,18,25 日 11 月 1,8,22,29 日、東京大学大学院情報学環「アーカイブの世界」
10 月 17 日 藤女子大学「女性とキャリア」
10 月 23,30 日 11 月 6,13,20,27 日 東京学芸大学「博物館資料保存論」

<定期訪問>

9 月 26 日、10 月 11 日、東京大学史料室

<見学>

- 10 月 18 日 東京大学史料室、東京大学大学院情報学環「アーカイブの世界」受講生
11 月 18 日 寒川文書館、東京大学大学院情報学環境

■巻末ひとこと・携帯でできてたことができません。なんか古びたスマホ半年。(ち)

受講者、神奈川県

- 11 月 20 日 東京学芸大学大学史資料室、東京
11 月 21 日 図書館総合展、パシフィコ横浜
11 月 24 日 東日本大震災とアーカイブ 東京大学福武ホール、本郷

<参加>

- 9 月 15 日、10 月 21 日 辻堂東海岸 3 丁目防災まち歩き、藤沢
9 月 17 日 原発いらない湘南パレード、藤沢
9 月 19 日、11 月 19 日 記録管理学会理事会、東京
9 月 22 日、10 月 20 日、辻堂東海岸 3 丁目町内会役員会、広報部打合せ、市民の家、藤沢
10 月 3 日 千種台 39 会打合せ、東京会館
10 月 6 日 映画「シェーナウの想い」上映会 藤沢
10 月 8 日 辻堂運動会、辻堂小学校、藤沢
10 月 13 日 サオリさん結婚式、和田倉レストラン、東京
11 月 1 日 アーカイブ研究会、鍋ぞう、池袋
11 月 18 日 清掃デー、防災訓練予行演習、辻堂東海岸緑の広場他、藤沢
11 月 24 日 公開フォーラム「震災の記録をどう活用するか:膨大な映像記録を中心に」東大福武ホール、本郷
11 月 25 日 藤沢市防災訓練 八松小学校、藤沢
11 月 30 日 原発国民投票署名活動、藤沢

<その他>

聴講 石原一則講師の授業 9 月 28 日 学習院大学大学院アーカイブズ学専攻

Documenting Japan International Report 国際資料研究所報

ISSN 1342-632X

DJIレポート

DJIホームページ: http://www.djichiyoko.com

No. 92 20121130

発行所: 国際資料研究所 Documenting Japan International 代表 小川 千代子 〒251-0045 神奈川県藤沢市辻堂東海岸3-8-24 fax+ phone 0466-31-5061 DJI ブログ: http://djiarchiv.exblog.jp/

DJIメル友速報は、DJIレポートの無料メルマガです。配信ご希望の方はお申し込みください。 Email: djiarchiv@ybb.ne.jp